

サンデン、印で量産

電動圧縮機 5極体制

サンデンは2028年をめどにインドで電気自動車（EV）向け電動コンプレッサーを量産する。ハリヤナ州の既存工場に新ラインを立ち上げる方針。年産能力は50万台規模を見込んでおり、現地メーカーなどの旺盛な需要にこたえる。インドでの量産で電動コンプレッサーの世界年産能力は650万台に達する見通し。28年に電動コンプレッサーの売上高比率を44%（23年は25%）とする計画達成の土台が整う。

インド自動車市場は内燃機関（ICE）車を中心だが、政府の振興策もあり、EV市場が成長する。他国への輸出生産も期待される。サンデンもインド現地メーカーや日系、欧州系のグローバルメーカーから電動コンプレッサーのインド生産の引き合いを受けた。日本、中国、欧州、北米の4極体制で生産してきたが、インドを加えて5極体制に拡充することを決めた。

小林英幸副社長は「現地のマーケティングに沿い、インドに合った生産ラインを入れた」と説明する。大がかりな自動化は行わず、現地従業員の労働力を活用したラインになる見込みだという。製品は最先端モデルより旧世代のアセットを活用。インドで求められるものを提供する。同社にとって電動コンプレッサーをはじめとする電動化製品の事業成長は目下の課題だ。現在は売上高の約半分をICE車向けの機械式コンプレッサーが占め、EVシフトが進めば需要は減退する。一方で同社の電動

化製品はEV市場成長が停滞しても、需要が堅調なハイブリッド車（HV）に供給できる強みがある。

24―28年の中期経営計画で事業の主軸を電動化製品に転換する目標を立てており、増産を進めてきた。電動コンプレッサーは25年秋にもフランスで新ライン立ち上げを控えており、世界年産能力は600万台に増える。これにインド事業が加われば同650万台に増加する。小林副社長は「インドが整えば中計達成は問題ない」と自信を見せる。